



たかくらだより

《教育目標》 心身ともにたくましく、自立した子どもの育成

北九州市立高蔵小学校

校長 朝倉 謙吾

平成28年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」については、平成28年4月19日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

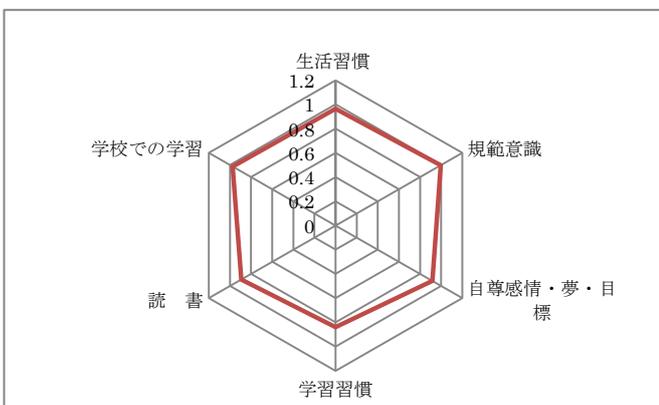
この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

学力の定義や捉え方は様々であり、一概に論じることはできません。この学力調査もそのときの学力の一部を表しているに過ぎませんが、この結果も客観的な指標の一つであると考えます。本校では調査結果も重視し、今後も効果的な指導や学力向上につながる教育活動が実践できるように努めてまいります。

1. 教科に関する調査結果の概要

カテゴリー	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	言語に関して、漢字やローマ字や基礎的な語句の意味の理解に課題がある。文章を読むことに慣れ、基本的な定着を図る必要がある。	下回っている
国語B	文章の読み方、書き方を中心とした活用する力に課題がある。聞かれていることはどんなことか、必要なことは何かを判断する力が必要である。	下回っている
算数A	計算力については、取組の成果が少しずつでているが、基礎的・基本的な学習問題の定着に課題がある。	下回っている
算数B	数量関係の割合について、具体的な場面で算数を活用する問題に課題があった。問題の意味を考え、順序立てて記述していく力が必要である。	下回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

- ・ テレビ等の接触時間は減っているが、テレビゲームやスマホ・携帯を使ったゲームに2時間以上接触している児童の割合は増えている。
- ・ 学校のきまりを守っているという児童の割合が高く、規範意識は高い。
- ・ 自分にはよいところがあると答えた児童の割合は低く、自尊感情が低い傾向にある。
- ・ 将来の夢や希望をもっている児童の割合は、全国平均より高い。それぞれの夢を実現させるために具体的な目標設定を行い、行動に結び付けさせることが必要である。
- ・ 読書が好きと答えた児童が増えているが、好きではないと答える児童も多い。

3. 調査結果から明らかになった課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組（全校で・学年で・学級で）

- ・ 毎週水曜日の計算タイム、木曜日の読書タイム（読み聞かせ）、金曜日の音読タイムを全校一斉に実施する。
- ・ 各学年の実態を踏まえ、基礎的な問題やアシストシートなどの問題を計算タイムに行い、基礎・基本の徹底を図る。
- ・ 授業の中に、ペアや小グループでの話し合い活動を効果的に取り入れるなどの授業改善を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・ 学校通信などで学習時間、学習内容、学習方法について、児童及び保護者の方への啓発を行う。
- ・ 「家庭学習チャレンジハンドブック」を活用した自主学習を推進するとともに、自学ノートを作成し、自宅での復習などに取り組ませる。
- ・ 全国学力・学習状況調査の結果の概要や、課題や取組等を学校だより、学校HPで周知する。